

第13回

栄光

OB フォーラム
オンライン

2021年

6月26日(土)

10:00-(ZOOM 入室開始 9:45)

オンライン会議サービス ZOOM による Webiner 形式のイベントです。インターネットに接続された PC、スマートフォン、タブレットから視聴できます。参加無料。専用申込サイトによる事前申し込みが必要です。ご家族ご友人をお誘いのうえ、奮ってご参加ください。



申込サイト

<https://forms.gle/juSM3Zrdz2zniYva8>

日本の防災、世界の災害

熊本・球磨川、長野・千曲川、岡山・高梁川と毎年のように大きな災害が発生しています。世界に目を向けてもハリケーン、地震、津波と大災害が頻発しています。現在、コロナパンデミック禍では災害対応の難しさが増しています。今後も気候変動により災害被害が増えると予測されています。途上国の現場を紹介しながら、災害が増える原因、災害が生み出す格差、日本の経験や技術をどう生かすか、考えてみたいと思います。



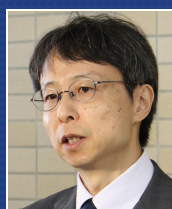
石渡 幹夫 (30期)

国際協力機構国際協力専門員、東京大学大学院客員教授、日本水フォーラムアドバイザー

防災や水資源、環境、平和構築分野の ODA プロジェクト、研究、教育に従事している。これまで建設省（現国土交通省）、世界銀行、アジア開発銀行等にて国内外の防災やインフラの政策づくりやプロジェクト、研究に関わる。主な著書に「日本の防災、世界の災害：鹿島出版会」、「Learning from megadisaster: Lessons from Great East Japan Earthquake（共編著）：World Bank」、防災に関わる学術論文、著作多数。博士（国際協力学）。

福島第一事故と放射線リスク・コミュニケーション

東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、福島県を中心とする広い範囲が放射性物質によって汚染された。その結果、多くの方々が避難・移転を余儀なくされるとともに、放射線被ばくをめぐる問題は社会を混乱に陥れ、様々な言説が飛び交うこととなった。そのような中で放射線リスク・コミュニケーションに携わった経験と、そこから学んだ教訓を、一人の専門家としてお話ししたい。



伴 信彦 (30期)

原子力規制委員会委員

放射線防護を専門とするわが国唯一の講座であった東京大学医学部放射線健康管理学教室で学び、修士課程（保健学）修了と同時に、動力炉・核燃料開発事業団（現在の日本原子力研究開発機構）に入社。作業者の被ばく線量測定評価業務に 5 年間携わった後、東京大学に助手として戻り、博士号（医学）取得。さらに2つの看護系大学で教育・研究に従事し、2015 年より現職。